

第 2 回南相馬市まち・ひと・しごと創生ワーキンググループ
協 議 結 果

平成 27 年 8 月 6 日に、第 2 回南相馬市まち・ひと・しごと創生ワーキンググループを開催し、第 1 回及び第 2 回有識者会議で出された意見について、市役所の視点から以下のとおり整理した。

【区分説明】

- ：既に市等において事業化しているもの
- ：事業化はしていないが、行政が対応すべきもの
- ：行政が対応するためには課題があるもの
- ×：市が対応することは困難または不可能なもの

分野	有識者会議意見	区分	区分コメント	復興総合計画への掲載有無
地元企業支援	企業誘致ばかりでなく、地元企業の育成をしてほしい。		復興総合計画の中でも「地場産業の支援」を位置づけ、取り組んでいる。	(P50)
	賃金が上がれば労働者は増える。地域の賃金上がるような取り組みをしてほしい。		それぞれの事業所の経営に関わるものであり、施策としては困難。	×
	家庭にしながら企業の軽作業を手伝う「内職バンク」の仕組みをつくってほしい。		対応は可能と考える。	×
企業誘致の推進	柔軟なシフトが組める、働きやすい企業を誘致すべき。		そういった企業であることが望ましいが、必ずしもそういった企業ばかり誘致できるとは限らない。	(P51)
	託児施設を完備し、簡単に倒産することがないような大企業を誘致してほしい。		託児施設についてはそれぞれの企業の状況によるが、簡単に倒産しないような企業を誘致すべく現在働きかけている。	(P51)

分野	有識者会議意見	区分	区分コメント	復興総合計画への掲載有無
農業支援	地元の食材を学校給食で使ってほしい。		地元食材を学校給食で使用した際に受けられる県の補助金体制はできているが、保護者の反応等を考慮すると、早期の導入は困難。	×
	農業法人の立上げを支援し、主婦層等女性労働力や農業高校の卒業生の受け皿としてほしい。		農業法人化に向けた支援制度は既にある。ただし、女性労働力や農業高校の卒業生の受け皿とすることについては、今後の課題。	(P56)
	南相馬市の野菜は、現在価格が安いいため、農業法人が出せる賃金も低くせざるを得ない。そういったところへのバックアップがあれば法人が増え、若い人も入りやすくなると思う。		研修生への賃金に対する県の補助金がある。各集落や認定農業者向けの説明会の中で周知している。	(P56)
	周年で農作物がつかれること、常磐道の開通で首都圏への出荷もしやすくなったことをPRしてほしい。		昨年から市場、漁協等向けにPRをスタート。対応は可能である。	(P57)
地活性化 中心市街	駅前通りに駐車場を整備してほしい。		小さい駐車場を数カ所整備することで対応は可能と考える。	×
相馬野馬追	「内輪の祭」のイメージが強い。外部の人がもっと気軽に参加できる工夫が必要。		国指定重要無形民俗文化財であるということ、馬の準備、けがの問題等から本祭りへの安易な参加は困難だが、甲冑の着付けなどは観光協会で行っている。	×
	首都圏ではほとんど知られていない。知名度を上げる努力を。		東京の神田祭や秋葉原、かつて下総国と呼ばれた千葉県や茨城県などでのPR活動を行っている。	(P60)

分野	有識者会議意見	区分	区分コメント	復興総合計画への掲載有無
相馬野馬追	野馬追を未来に伝えていくためには、甲冑師や染物屋など裏で支える人のバックアップも必要。		馬の状態を診る獣医を含め、人材育成が必要。	×
	馬事文化というだけでなく、歴史、文化の面からも野馬追をPRすべき。		国指定重要無形民俗文化財に指定された根拠である野馬懸を重点的にPRすることも必要。	×
	「ひばりFM」は、ラジオだけでなく、スマートフォンのアプリで聴くことができる。ひばりFMでは相馬野馬追の生中継をしているため、それを全国に向けて発信してほしい。	×	「ひばりFM」は災害用FMとして始まったものであり、コミュニティFMとしてニーズがあるかどうか不明。主体が市ではない。	×
子育て支援	震災後、この地域で頑張ってきた子育てをしてきた人に対する支援をしてほしい。		この地域で子育てをしてきた人により手厚くということはできないが、今後子育てをしていく人と同様に支援をしていく。	(P68)
	女性が仕事をするためには子どもを保育園に預ければいいという簡単な話ではない。様々な障壁があるので、多角的に検討してほしい。		市が取り組むのは、まずは待機児童をなくすということであり、意見として出されている様々な障壁には個人的な部分が含まれていることから、行政として踏み込むことは困難。	(P69)
	男性が育児休暇を取得しやすいまちになってほしい(ワークライフバランスの推進)。		基本的には雇用主が進めるべきところだが、市としても推進する必要がある。	(P54)
	父親としての自覚を促すため、希望者に対し「父子手帳」を交付してほしい。		父子手帳交付により得られる効果が不透明。飯舘村で実施していたことから、今後調査する。	×
	「シングルファーザーも暮らしやすいまち」を目指してほしい。		シングルファーザーであるか否かにかかわらず、子育てをしやすいまちを目指していく。	×

分野	有識者会議意見	区分	区分コメント	復興総合計画への掲載有無
子育て支援	中小企業では男性社員が育児休暇を取得することは困難(代わりがない)。そういったところへの行政支援を求める。		今後、仕事と子育ての両立が可能な環境づくりを推進する。	(P54)
	医療環境を充実してほしい(自前でできなければ、高度医療を受けるための通院支援等)。		これまでも医療環境の充実に取り組んでいるところだが、さらに充実させていく必要がある。	(P66)
境・自然環境・景観	北泉海岸を、もう一度サーフィンの世界大会が開かれる海岸にしてほしい。		北泉海岸については、現在復旧に向けて整備中。	(P103)
教育	全国平均と比較し低いと言われる学力の向上。		学力の向上が南相馬市の地方創生にどのような効果をもたらすかという部分について検討が必要。	(P120)
	医療や福祉の知識のある子どもの増加。		放射能に関する学習など、既存の事業で取り組んでいる。	(P122)
スポーツ	スポーツ関係の大きな大会を誘致してほしい。		今後新たな施設の整備も計画しており、大会の誘致に向け準備を進めている。	(P62)
まちのPR	「のまたん」の市公認キャラクター化、グッズ展開。		市役所が事業主体となるべきではないが、意欲的な団体・企業には支援すべきと考える。	×
	首都圏できちんとPRすれば、関心を持つ人は相当数いる。効果的なPR手法を検討してほしい。		必要性は認識しているが、効果的な手法について検討が必要。	(P60)
	「のまたん」や「ディネード」を使って、外に向けてPRすべき。	×	PRは必要であるが、のまたんやディネードに特化するのではなく、市としてはより大きな視点で、最も効果的な手法を検討すべき。	×

分野	有識者会議意見	区分	区分コメント	復興総合計画への掲載有無
移住・定住	独身者向けの移住施策をつくってほしい。独身者の方が身動きが取りやすい。		対象となる独身者が、どういった人を指しているのが不明。	×
	家賃が高い。空き物件がない。市に対する注目度が高い今こそ受け入れ体制が必要。		来年4月の避難指示解除を目標としており、市内全域に住めるようになった状況を見てみないと、支援制度が必要かどうか判断できない。	(P114)
	移住希望者が初めて南相馬市を訪れたときに、ワンストップで話ができる場づくり。		移住相談の窓口として「南相馬市ふるさと回帰支援センター」があるが、ワンストップとするためには、さらに充実させる必要がある。	(P63)
	移住しようとする地域がどういった地域か、事前に情報が得られるようにしてほしい(隣組、風習等)。	×	隣組や特定の地区の風習まで行政が情報提供することは不可能。	×
職員研修	復興を進めるため、職員が習得すべき知識等を身につけるための研修体制を構築すべき。		現在も研修は実施しており、今後もさらに充実させる必要がある。	(P138)